

令和8年度 シラバス 【情報処理】

科目名	単位数	学年	使用教科書	使用副教材						
情報処理	5	1	最新情報処理 新訂版(実教出版)	学習と検定 全商情報処理検定テキスト(情報基礎、情報処理) 情報処理検定模擬問題集(情報基礎、情報処理) ビジネス文書実務検定模擬試験問題集(3級)						
<p>◇科目の概要と目標</p> <p>・高度情報化社会の進展に伴い、ICTを業務に活用するための専門的な知識・技術を持った情報処理技術者の必要性が高まっている。そこで、情報処理ではICTを生活やビジネスで活用するための知識や具体的方法を学ぶ。 ・情報処理機器の活用に関する知識と技術を習得させ、ビジネスの諸活動に関する情報の意義や役割について理解させるとともに、情報を適切に収集、処理し活用する能力と態度を育てる。</p>										
<p>◇科目の観点別評価の目標</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>知識・技術</th> <th>思考・判断・表現</th> <th>主体的に学習に取り組む態度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>情報の収集・処理・分析・表現に関する基本的な知識や技術を身に付け、ビジネスの諸活動における情報の活用を合理的に計画し、その技術を適切に活用できる。</td> <td>ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用することを目指して思考を深め、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付ける。</td> <td>情報の収集・処理・分析・表現に関心を持ち、ビジネスの諸活動において情報を活用することを目指して主体的に取り組もうとするとともに、情報を活用する実践的な態度を身に付ける。</td> </tr> </tbody> </table>					知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	情報の収集・処理・分析・表現に関する基本的な知識や技術を身に付け、ビジネスの諸活動における情報の活用を合理的に計画し、その技術を適切に活用できる。	ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用することを目指して思考を深め、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付ける。	情報の収集・処理・分析・表現に関心を持ち、ビジネスの諸活動において情報を活用することを目指して主体的に取り組もうとするとともに、情報を活用する実践的な態度を身に付ける。
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度								
情報の収集・処理・分析・表現に関する基本的な知識や技術を身に付け、ビジネスの諸活動における情報の活用を合理的に計画し、その技術を適切に活用できる。	ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用することを目指して思考を深め、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付ける。	情報の収集・処理・分析・表現に関心を持ち、ビジネスの諸活動において情報を活用することを目指して主体的に取り組もうとするとともに、情報を活用する実践的な態度を身に付ける。								
月	4月	5月		6月	7月					
科目名	単元1	単元2	単元3	単元4	7月					
情報処理	1章 企業活動と情報処理 1節 情報処理の重要性 2節 情報モラルと法規	1章 企業活動と情報処理 3節 コミュニケーションと情報デザイン 2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク 1節 コンピュータシステムの概要	中間考査	2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク 2節 情報通信ネットワークのしくみと構造	2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク インターネットの活用 4節 情報セキュリティの確保	期末考査				
知識・技術	・ビジネスの諸活動における情報の役割とコンピュータを利用した情報活用の重要性を学ぶ。 ・コンピュータや周辺機器の仕組みと、ソフトウェアの役割を理解し、目的に応じた機器の選択や利用ができる知識を身につける。	・コンピュータや周辺機器の仕組みと、ソフトウェアの役割を理解し、目的に応じた機器の選択や利用ができる知識を身につける。	・単元1、2の重要語句に関する問い約40点分。	・ブラウザの基本的な機能を理解している。	・インターネット上の情報について、発信元や入手経路等の特性により正確性や価値を判断する必要があることを理解している。	・単元3、4の重要語句に関する問い約40点分。				
思考・判断・表現	・情報化社会に参画するために個人が身につけるべき情報モラルについて学ぶ。	・情報通信ネットワークの概要を理解し、その利点を活用した様々な活用方法があることに気づくとともに、自ら積極的に活用する方法を考察することができる。	・単元1、2に関する思考問題、判断問題を約60点分。	・検索の方法、手順やキーワードなどを工夫して効率的な情報検索をすることができる。	・収集した情報の価値や正確性について正しく判断できる。	・単元3、4に関する思考問題、判断問題を約60点分。				
主体的に学習に取り組む態度	・グループの話し合いの参加し取り組む姿勢を評価の参考にする。	・グループの話し合いの参加し取り組む姿勢を評価の参考にする。	・考査に向けての取り組みが見られない場合に限り、評価に反映。	・グループの話し合いの参加し取り組む姿勢を評価の参考にする。	・グループの話し合いの参加し取り組む姿勢を評価の参考にする。	・考査に向けての取り組みが見られない場合に限り、評価に反映。				
月	7月	9月	10月		11月	12月				
科目名	単元5	単元6	単元7	単元8	12月					
情報処理	3章 情報の集計と分析 1節 ビジネスと統計	3章 情報の集計と分析 5節 問題の発見と解決の方法	中間考査	4章 ビジネス文書の作成 1節 ビジネス文書と表現 2節 基本文書の作成	4章 ビジネス文書の作成 3節 応用文書の作成	期末考査				
知識・技術	・表計算ソフトウェアの特徴ならびに、ワークシートの構成や機能を理解している。	・整列や検索などの手法を用いてデータを必要な形で取り出すことの意義を理解している。 ・統計の目的や活用方法を理解している。	・単元5、6の重要語句に関する問い約40点分。	・ワープロの基本的な方法やホームポジションとタッチメソッドについて理解している。	・罫線の表とセルの考え方、計算式、関数、表示形式の入力方法を理解している。 ・表計算ソフトウェアを利用したグラフの作成方法を理解している。	・単元7、8の重要語句に関する問い約40点分。				
思考・判断・表現	・表計算ソフトウェアの機能を用いたデータを適切な表に表すことができる。	・整列や検索などの手法を用いてデータを必要な形で取り出すことの意義を理解している。	・単元5、6に関する思考問題、判断問題を約60点分。	・社外文書、社交文書、取引文書、社内文書の作成方法を理解し、文書の作成に役立てることができる。	表計算ソフトウェアで作成したグラフや表をワープロに貼り付ける方法を理解し、文書の作成に役立てることができる。	・単元7、8に関する思考問題、判断問題を約60点分。				
主体的に学習に取り組む態度	・グループの話し合いの参加し取り組む姿勢を評価の参考にする。	・グループの話し合いの参加し取り組む姿勢を評価の参考にする。	・考査に向けての取り組みが見られない場合に限り、評価に反映。	・グループの話し合いの参加し取り組む姿勢を評価の参考にする。	・グループの話し合いの参加し取り組む姿勢を評価の参考にする。	・考査に向けての取り組みが見られない場合に限り、評価に反映。				
月	12月	1月	2月		3月 年間					
科目名	単元9	単元10	単元11	学年末考査	総合評価					
情報処理	3章 情報の集計と分析 1節 ビジネスと統計 2節 関数を利用した表の作成	3章 情報の集計と分析 3節 グラフの作成 4節 情報の整列・検索・抽出	5章 プレゼンテーション 1節 プレゼンテーションの技法 2節 ビジネスにおけるプレゼンテーション	学年末考査	総合評価					
知識・技術	・表計算ソフトウェアの特徴ならびに、ワークシートの構成や機能を理解している。 ・関数の書式や機能を理解している。	・表計算ソフトウェアにおける数値、文字などのデータや計算式の取り扱いを理解している。	・プレゼンテーション活動の目的や方法について理解させる。 ・プレゼンテーションソフトウェアを活用した実習を通してプレゼンテーション技法を習得させる。	・単元9、10、11の重要語句に関する問い約40点分。	・ビジネスにおける情報活用の意義と役割を理解するとともに、それを実践するための知識を身につけ、ビジネスの基礎知識ならびにコンピュータの活用に関する基礎的な知識を身につけている。					
思考・判断・表現	・表計算ソフトウェアの機能を用いたデータを適切な表に表すことができる。 ・関数を利用して有用なビジネス情報を導き出すための技法を学ぶ。	・問題を分析して、適切な表の形式や関数を選択し、問題解決に必要な表を作成することができる。	・自分や他の生徒が実施したプレゼンテーションについて、その良い点や改善点を適切に評価できる。 ・目的に応じたストーリーの作成ができる。	・単元9、10、11に関する思考問題、判断問題を約60点分。	・情報をビジネスに活用するために、目的に応じた機器やソフトウェアを選択して利用したり、情報を活用しやすい形に加工する工夫を行うとともに、情報モラルを踏まえた適切な判断ができる。					
主体的に学習に取り組む態度	・グループの話し合いの参加し取り組む姿勢を評価の参考にする。	・グループの話し合いの参加し取り組む姿勢を評価の参考にする。	・グループの話し合いの参加し取り組む姿勢を評価の参考にする。	・考査に向けての取り組みが見られない場合に限り、評価に反映。	・ビジネスにおける情報の活用に関心を持ち、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用しようとする。また、ビジネス情報の収集、整理・加工、伝達に必要な情報技術を活用するための知識・技術を積極的に身につけようとする。					